

## 第2章 一般概況



鍋沼と磐梯山



## 第2章 一般概況

会津若松市は、福島県の西部、会津盆地の東南に位置し、東には全国4位の面積を持つ、猪苗代湖を境とし、磐梯山を望み、北には飯豊山を望むことができます。

本市の歴史は古く、古事記や日本書紀などにも「相津」という地名が記されており、この「相津」が後に「会津」になったとされています。

城下町としては、至徳元年(1384年)に葦名直盛が「館」を築いたのが始まりといわれています。そして、蒲生氏郷の時代に七層の城を築き「鶴ヶ城」と命名し、城下町の再編・整備を行い、地名を「黒川」から「若松」に改称しました。

その後、徳川三代将軍家光の異母弟である保科正之によって会津藩が確立され、白虎隊の悲劇でも有名な戊辰の戦いで武家社会が終焉を迎えるまで、会津は東北地方の要衝として、その名を歴史に刻んできました。この長い歴史の中で、会津では教育文化や産業経済が著しく発展を遂げ、特に漆器、酒造などの伝統的な地場産業が振興されるなど、固有の文化も形づくられてきました。

近年では、日本有数のコンピュータ理工学の専門大学である「会津大学」が産学官の連携による研究・開発協力や新時代に対応できる情報技術の教育などの分野で貢献しています。

### 2-1. 位置、標高

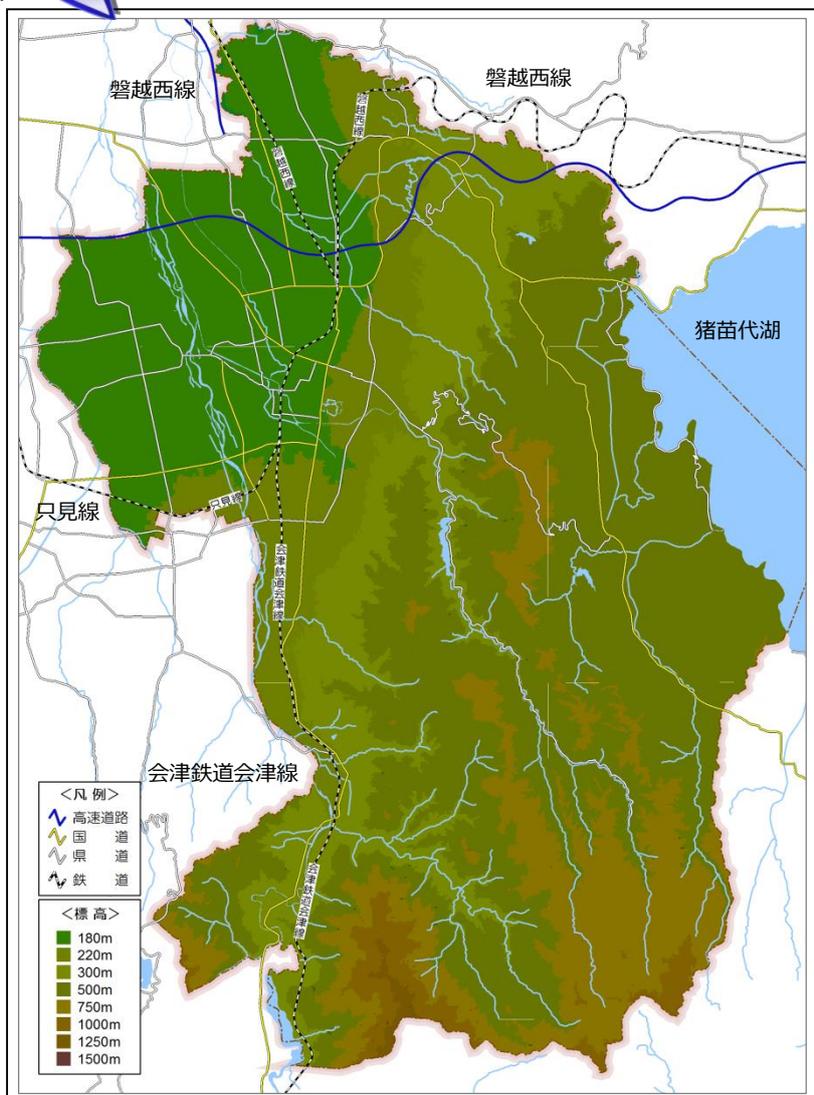
本市は、福島県の西部会津盆地の東南にあり、東京から約300km、県都福島市から約100kmの距離にあります。東は淡水湖の猪苗代湖を境とし、南は布引山・大戸岳を境とした諸山岳が壁をなし、西は会津平坦部を縦断する宮川を境とし、北は日橋川を境としています。

市域面積は、約383km<sup>2</sup>であり、地形は東西に約20km、南北に約29kmとなっています。南北方向に阿賀野川水系の阿賀川が流れており、本市を経て日本海に注いでいます。

東から西へ向けて低くなる地形で、市内の標高は約200m～1,500mと非常に標高差が大きくなっています。



出典:平成 26 年度 会津若松市の市政



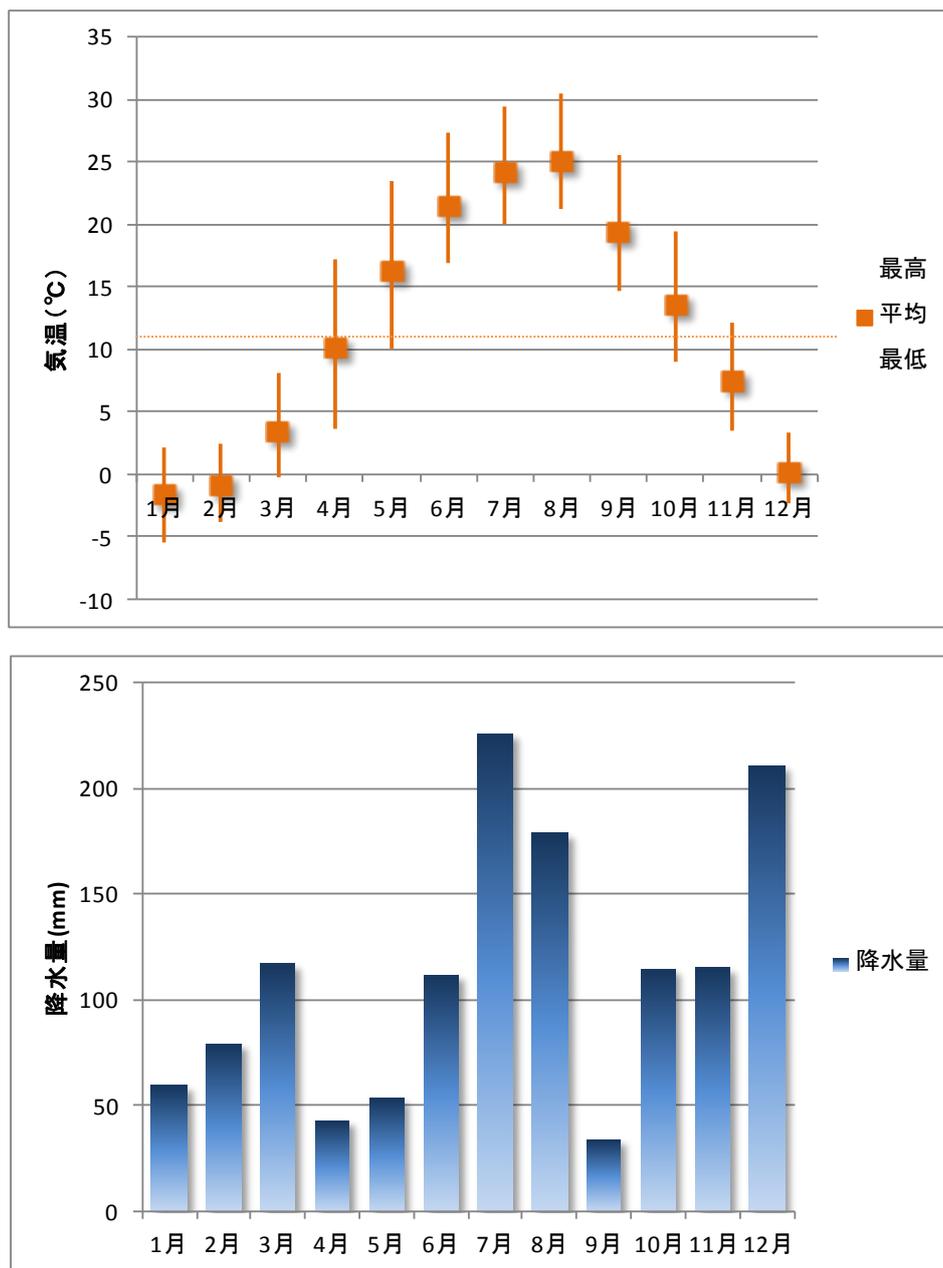
出典:(財)日本地図センター 数値地図 50m メッシュ(標高)

図 2-1 会津若松市の位置と標高

## 2-2. 自然条件

### 1) 気温

気候は、年平均気温約 11℃、年間平均降水量は約 1,200mm となっています。内陸盆地特有の気候を示し、夏期は太平洋側の気候で蒸し暑く、冬期は日本海側の気候で晴天が少なく降雪量が多くなっています。



出典:市勢統計データ2015(統計表) 平成26年 若松特別地域気象観測所

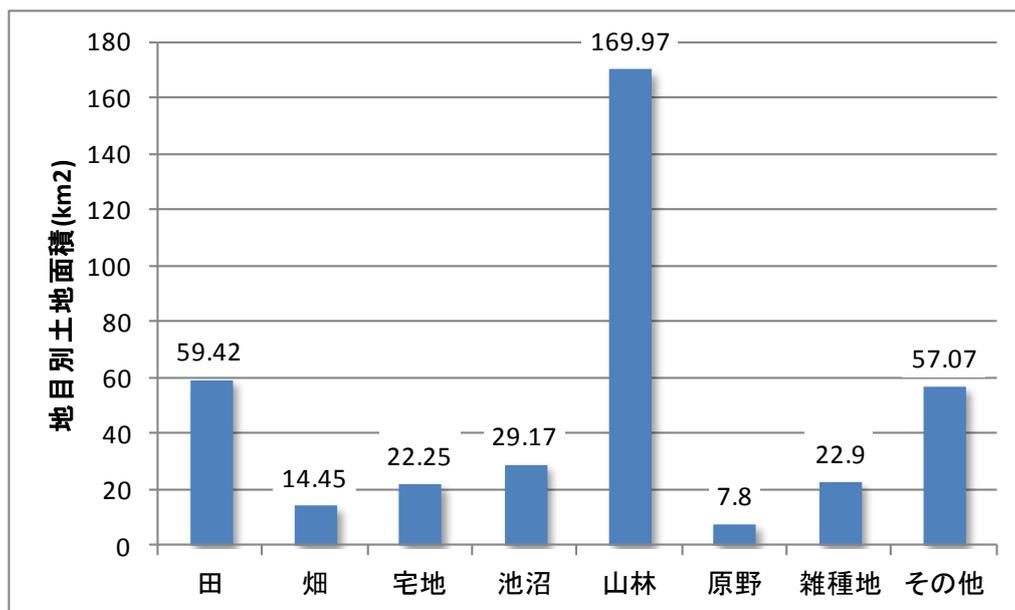
図 2-2 気温と降水量

## 2) 地質、土地利用

地質は、主に石英安山岩で、沖積層からなっています。

また、土地利用については、市内の44%にあたる170km<sup>2</sup>は山林であり、田と畑は全体の20%(74km<sup>2</sup>)、山林と田畑をあわせると全体の6割を占めます。

これに対して、宅地は22km<sup>2</sup>で全体の6%となっています。



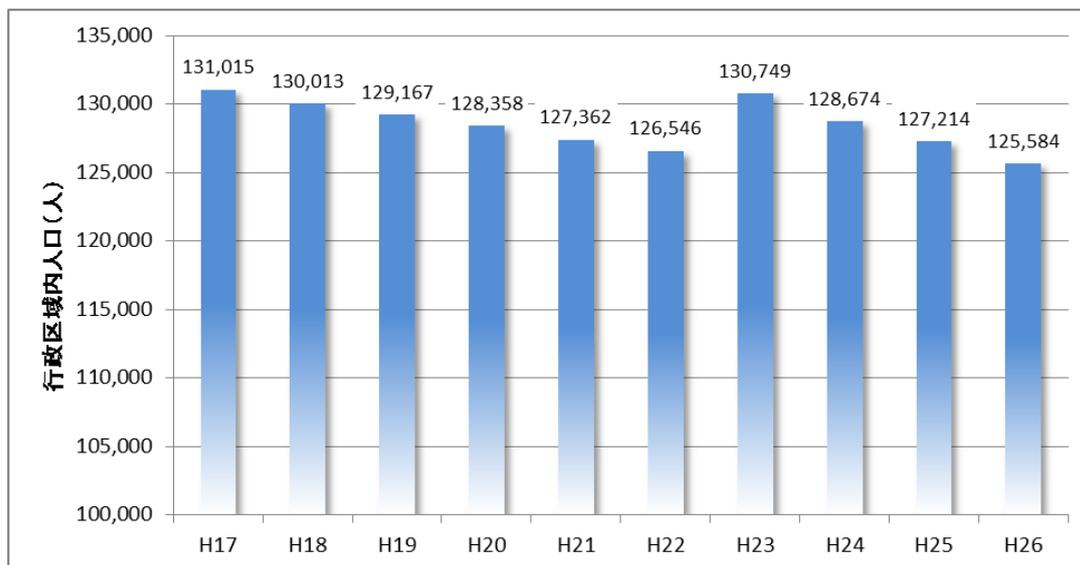
出典:市勢統計データ2015(統計表)平成26年 (※総面積は383.03km<sup>2</sup>)

図 2-3 地目別の土地面積

## 2-3. 社会条件

### 1) 人口

行政区域内人口は平成 22 年度までは減少基調にあるものの、東日本大震災による避難者の増加により平成 23 年度は一時的に増加し、その後再び減少で推移しています。

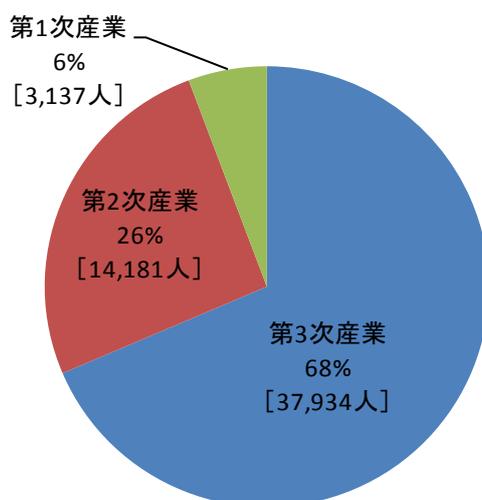


出典:水道事業決算資料(平成 17~26 年度)

図 2-4 会津若松市の行政区域内人口の推移

### 2) 産業

就業者の産業別分類をみると、第三次産業が 68%と最も多く、次いで第二次産業 26%、第一次産業6%の順となっています。これは全国的な傾向と同様の傾向を示しています。



出典:平成 22 年国勢調査

図 2-5 産業別人口構成比